
死神の鎌は知らず知らずに降り下ろされる

黒竜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

死神の鎌は知らず知らずに降り下ろされる

【Zコード】

Z7938Z

【作者名】

黒竜

【あらすじ】

『死神』に襲われて知らず知らずの内に『死神』になった青年が勘違いされて勘違いする物語です。

始まりは終わりから

宝くじの一等が当たる確率は何億分の一だが、誰かはその一等を当てるだろう。

同様に乗っていた飛行機が落ちる確率もその程度はある。どちらも人が生きている内に一回も当たる事が無いことがほとんどだろう。

しかし当たる人には当たるのだ。

宝くじの一等が当たる、

乗っていた飛行機が落ちる、

そんな幸運や不運に。

俺、柏木遼、がそんな事を考えているのは、

現在の状況に原因があるわけだが残念ながら宝くじの一等が当たるような幸運では無く。

乗っていた飛行機が落ちるような不運にあっているからだ。

それは……「夜に自動販売機に行つたら死神に追われるなんて不運の度を過ぎているだろうが！」

という意味が分からぬ現状を叫びながら人がいない夜道を走っている。

『死神』という現実には、普通あり得ない存在を見たことなんてないが、あれはどう見て死神だといえる。

何故なら漆黒のローブに身を包みフードで顔はよく見えないが唯一見える口元は三日月のようにゆがんでいて押し殺し損ねたような笑

い声が聞こえてくる。

何より闇夜に光る白銀の刃を持つ鎌を持っている。

そんな『死神』は宙を低空飛行しながら俺を追つてくれる。

追つてくる理由なんて俺を殺す事だろうが、

もう俺の命はもう終わりだと心が叫ぶ。

何せ俺は30分近く全力で走っているが

『死神』は宙を低空飛行しながら楽しむよつた俺の後を簡単に追つてくる。

さらに『死神』のせいだろうがいくら走つても人は見付からず、どこかの家に入る事も出来ない。

すでに肺は限界で足が止まる。

俺は『死神』の方に向き直り

「なあ死神、そろそろ終わりにしよう。」

と言い、16年間の短い人生を振り返りながら俺はこれから起きた事を受け入れるように腕を広げて笑う。

『死神』も笑いながら俺に近づき鎌を降り下ろす。

そして俺の視界は真っ黒に染まった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7938z/>

死神の鎌は知らず知らずに降り下ろされる

2011年12月25日15時50分発行